

おいしさ、そして、いのちへ。
Eat Well, Live Well.
AJINOMOTO®



偉人の食卓

The recipe made him
a great man.

福沢諭吉

人は平等だ。
だれでも腹が減る。

父を早くに亡くし母於順に

女手ひとつで育てられた諭吉。

学者として藩内に名を知られた

父の遺族でありながら生活は楽ではなかった。

母は食事はもちろん家事すべてをしながら

五人の子を世話した。

母は士族出身でありながら、身分の差を気にせず、

どんな者とも口をきいたという。

どこの誰ともわからない放浪の女に

飯を振舞うため、諭吉におにぎりを

握らせたこともあったらしい。

そのせいで母は近所の人たちから、

ちょっと変わった人と呼ばれたほど。

しかし、諭吉はそんな母から
大きな影響を受けて育った。

時は文明開化。肉食禁止令も解かれた時代。

海外の事情に通じていた諭吉は

洋食にもなんの抵抗もなく口にした。

『福翁自伝』にもあるように、牛肉、

とりわけ牛鍋が大の好物で、

時には肉食啓発の宣伝文まで書いたことがあった。

欧米諸国を自分の足で見て回り、

日本と異なる文化を肌で体感した諭吉。

西洋の食文化の象徴ともいえる牛肉を日本で食べ、

世の中に伝え広めることは、諭吉にとって

新しい日本の始まりそのものだったのだろう。

食は
人をつくる。



※料理・食器は参考資料をもとに再現したイメージです。

慶應義塾図書館所蔵